

特別支援学級 スタートブック



表紙 絵 三島市立南中学校知的障害学級合同作品

ゆったい構えて 元気よく 根気よく

～パートII(新任担任用)～

平成21年3月発行の『特別支援学級のハンドブック』と併せて 活用してください。



静岡県総合教育センター

● 特別支援学級へのきめ細かい指導・支援の推進のために ●

静岡県教育委員会では、特別支援学校級に在籍する児童生徒への指導・支援に役立つように、学級経営や授業づくりの指針となる資料として「特別支援学級担任のためのハンドブック」を平成21年3月に発行し、特別支援学級担任の資質向上を目的に小中学校へ配布しました。

	平成20年度	平成28年度
特別支援学級設置校数(実数)	424校	478校
特別支援学級数	733学級	1060学級
特別支援学級在籍児童生徒数	2936人	5086人

その後、静岡県内の小中学校の児童生徒数は減少傾向にありますが、上記の表に示したように、特別支援学級に在籍する児童生徒数は2936人(H20年度)から5086人(H28年度)へと増加しています。当然学級数も増加することから、初めて特別支援学級担任になる教員数も増加していることと考えられます。

「子どもの実態を知るためには、何をすればよいのだろうか」、「授業では、どのような方法で何を教えたらよいのだろうか」、「保護者との連携はどのように行ったらよいのか」などなど、総合教育センターへ研修に来た初めて特別支援学級担任になった教員の悩みの言葉です。特別支援学級ならではの運営等の困難性もあります。新任担任となった教員の戸惑いや不安が大きいことが推察できます。特別支援学校であれば特別支援教育の専門的知識や技能、経験等を積んだ同僚が周囲に多くいて、リアルタイムで悩みを相談し多角的な指導・助言を仰ぐことができます。

そこで平成27・28年度の総合教育センターの研究の一つとして、各学校で特別支援学級の新任担任になった教員を対象に、特別支援学級における教育実践をよりきめ細かく行えるように、教員が身近に置き、日常的に簡易に活用できる資料的な「特別支援学級スタートブック」の作成に取り組みました。既に配布してある「特別支援学級担任ハンドブック」と併せて活用することで、特別支援学級で日々の指導・支援が充実し、児童生徒が自立と社会参加に向けた力を着実に育んでいくことに役立てていただけたらと願っています。

平成29年3月

静岡県総合教育センター
所長 吉澤勝治

この本の使い方

- ・ 始めから全てを読まなくても、必要な時期に必要な部分から見てください。
- ・ 知りたいことに対応して、資料を分類してあります。自分がその時々に関心することから資料を見ていくとよいでしょう。
- ・ ☆のついている資料は、年度始め（入学式・始業式前）に見ておくによい資料です。
- ・ ○のついている資料は、肢体不自由・身体虚弱・弱視・難聴の特別支援学級においても参考になります。

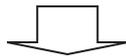
- ・ まず何から始めたらよいか知りたい
- ・ 子どもの実態を知るための方法を教えてほしい
- ・ 実態の違う児童生徒に対応した授業の進め方を知りたい
- ・ 教室にどんなものがあるとよいか知りたい



学級事務・実態把握・教室環境に関する内容

		ページ
☆0	特別支援学級 1年間の学級事務 この時期にこれをやっておこう！	7
☆0	まずは子どもを知ることから！	8
○	特別支援学級2年目の教員が行っている実態把握の方法	9
○	個別の教育支援計画、個別の指導計画	10
☆0	特別支援学級の教室環境	11
	特別支援学級の授業スタイル	15
○	このようなことに注意して、言葉掛けを	19

- ・ 特別支援学級の指導・支援について知りたい



知的障害特別支援学級に関する内容

		ページ
☆	知的障害のある児童生徒の特性と学習上の工夫	23
☆	知的障害特別支援学級の教育課程のポイント	24
☆	知的障害特別支援学級の週日課（例）	25
	知的障害特別支援学級の授業づくり	26
	生活単元学習	28
	小学校の生活単元学習の年間指導計画（例）	29
	中学校知的障害特別支援学級の授業スタイル	30
	中学校の生活単元学習の年間指導計画（例）	32
	作業学習	33
	日常生活の指導	34

自閉症・情緒障害特別支援学級に関する内容		ページ
☆	自閉症の特性に応じた指導	37
☆	自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程のポイント	37
☆	自閉症・情緒障害特別支援学級の週日課（例）	38

全ての特別支援学級に共通する内容		ページ
○	特別支援学級における教科指導	41
○	教材・教具の工夫	42
○	自立活動	45
○	交流及共同学習のポイントと計画例	48
○	保護者・支援員・関係機関との連携	50
○	進路指導	52

- ・今、特別支援学級で求められていることを知りたい
- ・将来に向けて、どんな力を育てていったらよいかを知りたい

インクルーシブ教育システム・将来に向けた指導に関する内容		ページ
○	インクルーシブ教育システムの構築に向けて	55
○	社会的自立をめざして	57

新任担任へのメッセージ		ページ
○	ゆったり構えて 元気よく 根気よく	4
○	特別支援学級へ託す思い	59

資料編		ページ
○	実態記入表	資-1
○	自己紹介カード（例）	資-3
	生活単元学習指導案 作成のポイント 中学校知的障害特別支援学級の例	資-4
	小学校 知的障害特別支援学級 生活単元学習指導案	資-6
	国語科学習指導案	資-11
	算数科学習指導案	資-16
	中学校 知的障害特別支援学級 作業学習指導案	資-17
	中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 自立活動指導案	資-19
○	就学支援の流れ	資-21
○	特別支援学校、特別支援学級、通級による指導における障害の種類及び程度	資-22
○	静岡県教科書センター一覧	資-24

ゆったり構えて 元気よく 根気よく

ゆったり構えて

「ゆったり構えて」とは、目の前にいる子どもをじっくり見つめて多面的に理解をするということ。

「元気よく」とは、教師自身が明るく元気に子どもに寄り添うということ。

「根気よく」とは、子どもの今と将来を見据えて、その子の可能性を信じて指導を工夫し、決して諦めないということ。

新任特別支援学級担任・通級指導教室担当の研修会において「特別支援教育はゆったり構えて 元気よく 根気よく」という話を聞いた新任の特別支援学級担任に感想を書いてもらいました。

小学校 自閉症・情緒 特別支援学級の担任になって

教員4年目の4月、特別支援学級の担任になりました。どんな子どもだろう？どんなことをしていくのだろうか？わたしに務まるのかな？と不安ばかりでした。でも、本校は特別支援学級が7クラス（知的学級4学級、自閉症・情緒障害学級3学級）あるので、先生や支援員さんの子どもへの接し方を見たり、朝の会を合同でやってもらったりしました。どこまで指導するのか、どのようなペースで進めるのかななどを周囲の先生方に教えていただいたので、子どもも私も戸惑うことなく学校のリズムに乗ることができました。

子どもの様子が分かってきた頃、何度指導しても定着していかないことが気になっていました。たとえば、算数で計算のやり方を教えて、一緒にやればできるけれど次の日には忘れてしまう…。漢字が定着しない…。友達をたたいてしまう…。大声を出してしまう…。何度声掛けをしてもできず、なおりません。声掛けの仕方や支援の方法を変えてみても変化が見られませんでした。私では学習面でも生活面でも成長させてあげられないのではないかと不安になっていました。

そんな時、新任特別支援学級担任研修で、「ゆったり構えて 元気よく 根気よく」という言葉を聞き、頑張るパワーをもらいました。焦らなくていいんだと、心が軽くなりました。そして、自分の心持ち次第で、子どもに対する接し方も変わっていくことを実感しました。先輩の先生にも「こわい顔は、子どもにとっていいことないよ。笑顔でね。」と言ってもらいました。笑顔で「すごいね！やったね！」と一緒に喜んだり、「頑張っていこう！」と子どもの応援団長になったりしていきたいと思います。

特別支援教育の実践者として、みなさんも「ゆったり構えて、元気よく、根気よく」取り組みましょう。

特別支援学級へ託す思い

特別支援学級への就学に当たって、本人及び保護者の思いとして大切にしていることが、私は二つあると思う。(もっとあるでしょうが・・・)

一つは、「友達と隔てないで！」という思いであり、もう一つは「教科学習を大切に！」という願いだ。

○「友達と隔てないで！」

特別支援学級に在籍することは、「少数派に属すること」という思いがあろう。しかし、友達(特に同級生)とは出来るだけ共に有りたいと願う。仲間でありたいと願う。学びの場が違うだけで、人と人との付き合いは同様でありたいと願う。しかし、本人・保護者には「友達が減るのでは無いか?」「仲間外れになるのでは無いか?」という心配が付きまとう。ここを、「交流及び共同学習」でカバーして欲しい。特別支援学級での学習時間も今までより緩和され、交流及び共同学習がしやすくなった。運営上は様々な制約があるだろうが、本人のためにも、通常学級の子どもたちのためにも、この時間の保障が大切だと切に思う。共生社会の基盤ともなり、「人権」と言う大切な権利を学ぶためにも、必要なことである。

○「教科学習を大切に！」

特別支援学級の子どもたちは、特に知的障害においては「スロー ラーナー」だろう。十分に時間を掛けて学ぶ必要のある子どもたちである。当たり前ではあるが、学びを割愛するのではなく、より丁寧な学びが必要と考える。「領域・教科を合わせた指導の形態」が相応しい場合も、その要素として「教科」の押さえが必要である。生活に結び付けながら、教科を学ぶ方法として

の「生活単元学習」である。

例えば、作物の種を植え付ける学習でも、どれだけの広さのところに、どれだけの種を、どんな間隔で蒔けばよいのか?これを考えさせようとするだけで教科学習へと発展する。子どもの状況次第で、全体の種数を計算で出すレベルから、例えば三粒ずつの塊にすることまで、子どもが状況に応じて分担しながら学ぶことができよう。そして、このような学びが、実際の生活で役立つ、さらに「知的好奇心」を駆り立てていけたら素晴らしい。また、この学習は、国語にも美術にも他教科にも関係して発展していくことが予想できる。

特別支援学級が通常の学校の中にあるのは、特別支援学級は特別支援学校を小さくしたものではなく、大人数の通常学級では為し得ない「理想の通常学級」を目指すものだと思う。そして、これが「選ばれる特別支援学級」となると考えるのである。



研究顧問 岡本康哉

【引用・参考文献等】

- ・茨城県教育研修センター 特別支援教育課 『特別支援学級スタート応援ブック 授業づくり編』（平成 25 年 3 月）
- ・岩手県立総合教育センター教育支援相談担当 『特別支援学級経営の手引』
- ・岩手県立総合教育センター教育支援相談担当 『自閉症のある児童生徒の自立活動ガイドブック ～他者とのかかわり編～』
- ・太田俊己、藤原義博 『新訂知的障害教育総論』、一般財団法人 放送大学教育振興会（平成 27 年）
- ・岡山県総合教育センター 『特別支援学級担任のためのハンドブック』（平成 24 年）
- ・河村久 交流及び共同学習の課題と取り組みの留意点、 東洋館出版社 特別支援教育研究（平成 28 年 5 月号）
- ・久保山茂樹 交流及び共同学習の意義 ～共生社会・インクルーシブ教育システムの実現に向けて～ 東洋館出版社 特別支援教育研究（平成 28 年 5 月号）
- ・静岡県教育委員会 『静岡県公立高等学校入学者選抜実施要項』（平成 28 年）
- ・静岡県教育委員会 『特別支援学級担任のためのハンドブック』（平成 21 年）
- ・静岡県総合教育センター 『特別支援学校の魅力ある授業づくり』（平成 24 年）
- ・全国心身障害児福祉財団『「自立活動指導ハンドブック」』 編著西川公司他（平成 14 年）
- ・全国特別支援学級設置学校協会 『「特別支援学級」と「通級による指導」』, P48 東洋館出版社（平成 24 年） 文部科学省
- ・全日本特別支援教育研究連盟編 『特別支援教育学級経営 12 か月特別支援学級』 東洋館出版（平成 25 年）
- ・奈良県立教育研究所 『特別支援学級及び通級指導教室教育課程ハンドブック』
- ・浜松市教育委員会学校教育部教職員課作成資料
- ・文部科学省 『教育支援資料』（平成 25 年 10 月）
- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領』（平成 21 年）
- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成 21 年）
- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）』（平成 21 年）
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課『「特別支援教育支援員」を活用するために』（平成 29 年）
- ・山梨県総合教育センター 「特別支援級における自立活動の指導に関する研究 I ー小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級を中心にー」（平成 23 年度）
- ・HP 複式指導を充実するための 21 のキーワード

【平成 27・28 年度 研究協力員・協力校等】

研究顧問 岡本 康哉（国立大学法人静岡大学教職大学院特任教授）

研究協力員 福井 孝子（義務教育課指導主事） 平成 27 年度
鈴木 宏征（義務教育課主任指導主事） 平成 28 年度
田中 亮輔（静岡教育事務所地域支援課指導主事）
田中 正信（静岡教育事務所地域支援課指導主事）
小川 容子（沼津市立門池小学校教諭）
田中美哉子（掛川市立大坂小学校教諭）

研究協力校 富士宮市立大宮小学校
三島市立南中学校
島田市立金谷小学校 平成 27 年度
掛川市立東中学校 平成 27 年度
袋井市立袋井北小学校 平成 28 年度
袋井市立三川小学校 平成 28 年度

資料提供校 長泉町立南小学校
藤枝市立葉梨小学校
牧之原市立地頭方小学校
磐田市立長野小学校
湖西市立岡崎中学校

【担当所員】

静岡県総合教育センター

参事兼専門支援課長 筒井昌博

特別支援班長 松本高治

特別支援班指導主事 和久田欣慈

齊藤 望 平成 28 年度

中里 千冬 平成 27 年度

柘植 美文

山崎かおる 平成 27 年度

松本 太郎

小林 雅樹 平成 28 年度

特別支援班特任教官 粕谷 泰以

横山 孝子

特別支援班長期研修員 亀 壮晴 平成 27 年度

池田 倫子 平成 28 年度